

第1回置賜定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録

【日時及び場所】

日 時 平成30年8月9日（木）13時～15時

場 所 伝国の杜 大会議室

【出席者】

委 員 尾形健明委員、水野由利子委員、清野雅好委員、亀岡淑子委員、
我妻行芳委員、柴田正孝委員、小川正昭委員、松田圭悟委員、
佐藤みさ子委員、遠藤央子委員（途中退席）、勝見英一朗委員、
鈴木和他委員、宮原博通委員、藤倉利英委員、高橋和衛委員、
守屋由美委員、米野斉巳委員

オブザーバー

置賜総合支庁総務課連携支援室連携支援専門員、
長井市総合政策課総合戦略主幹、南陽市みらい戦略課長補佐、
高畠町企画財政課長補佐、川西町未来づくり課長、
小国町総務企画課企画財政室長、白鷹町企画政策課長、
飯豊町総務企画課長

事務局 米沢市企画調整部長、米沢市企画調整部総合政策課長、総合政策課長補佐、
総合政策課企画調整主査、総合政策課主任、総合政策課主任、
置賜広域行政事務組合総務課広域連携主幹、
置賜広域行政事務組合総務課企画財政係長

米沢市長（委員委嘱）

【次第】

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長あいさつ
- 4 委員自己紹介及び事務局紹介
- 5 会長選出
- 6 会長あいさつ及び副会長の指名
- 7 議事
 - （1）会議等の公開について
 - （2）定住自立圏構想について
 - （3）置賜地域の現状について
 - （4）スケジュールについて
 - （5）意見交換
- 8 その他
- 9 閉会

【議事録（要点筆記）】

3 市長あいさつ

置賜地域内においても、人口減少が進むとともに少子高齢化が進展している。そのような中、それぞれの地域で、独自に地域の活性化、地方創生に取り組んでいるが、行政運営も厳しい状況が続いている。

これまでも、置賜3市5町で広域行政を進めてきたが、地域全体の活性化を目指し、これまで以上の広域的な連携を模索すべきという話になった。

今年2月に米沢市が中心市宣言を行い、その後、どのように連携していくかについて、各市町の6月議会において議決を得た後、米沢市と2市5町との間で協定を締結し、この協定に基づく具体的な方策を立てるために、共生ビジョン懇談会を開催した。

足りないところを補い、それを地域活性化につなげることで、住民の皆様の生活・利便性の向上のため、我々は広域的に連携を深めていく必要がある。

置賜全体の課題として、昨年、東北中央道が開通し、今年4月には道の駅米沢が営業を開始し、予想以上のお客様に來ていただいているが、これからは、道の駅から2市5町に足を延ばしてもらうような方策を考えていく必要があるため、広域観光の重要性があげられる。3市5町で肥育している米沢牛については、飼育者の高齢化などにより頭数が少なくなっていくことが考えられるため、これも重要な課題の一つである。また、地域の活性化のために、住民、特に若い人たちの地元定着についても真剣に考え、事業を推進していく必要がある。

様々な面について忌憚のない御意見をいただき、この置賜が山形県の南の玄関口として、しっかりと連携しながら進んでいくという使命の下に、皆様方のお力添えをいただきたい。

5 会長選出

事務局提案により、尾形健明委員を会長に選出

6 会長あいさつ及び副会長の指名

会長からの推薦により、小川正昭委員を副会長に指名

会 長 皆様と一緒に議論をしていきたいのでよろしくお願いいたします。

平成27年度にスタートした米沢市まちづくり総合計画の策定にも携わったが、その中で、他の委員から、一般解ではなく、米沢ならではの特殊解が必要だろうとの提案があった。米沢の場合は、大学が複数あり学生が多いことから、特殊解の一つとして「学園都市」をキーワードにし、その活用をすることで米沢市の発展につなげる、という形で取りまとめた。また、その時に、米沢市だけではなく、近隣2市5町と共生・共栄を図らなければならない、ということも盛り込んでいる。その結果として、このたび、このような懇談会を立ち上がってきたことについて、総合計画策定に携わった者として

ありがたく思っている。置賜ならではの「特殊解」を意識したビジョンを策定したいと考えているので、皆様方から忌憚のない御意見をいただきたい。

7 議事

(1) 会議等の公開について

事務局 資料1に基づき説明

会 長 会議等の公開について(案)で御意見、御質問等はないか。特になければ、事務局案のとおり会議及び議事録を公開することで決定することによいか。
(異議なし)

事務局案どおり会議を公開するということで決定する。

(2) 定住自立圏構想について

事務局 資料2、2-1、2-2、2-3に基づき説明

会 長 ただいまの説明について、御意見、御質問はないか。

委 員 資料2-1で、「定住自立圏に取り組む市町村に対する支援」について説明があったが、これは、ビジョンの期間である5年間に限ったものなのか。

事務局 ビジョンの期間は5年間だが、その後もビジョン自体を改定するなどして続けていく予定なので、制度が続く限りは、支援があるものと想定している。

(3) 置賜地域の現状について

事務局 資料3に基づき説明

会 長 盛りだくさんのデータなので、後で改めて目を通していただきたいが、この時点で御質問等があれば頂戴したい。

(意見・質問等はなし)

(4) スケジュールについて

事務局 資料4に基づき説明

会 長 スケジュールについて御質問等はないか。

(意見・質問等はなし)

次回が10月3日とのことなので、各自日程調整をお願いしたい。

(5) 意見交換

会 長 意見交換については、委員一人ひとりから、思いや、ビジョンの原案に盛り込んでほしいことなどを語っていただきたいと思うが、意見交換の方法について、事務局から説明をお願いしたい。

事務局 事前に送付した案内文書に記載のとおり、圏域の将来像や、定住自立圏構想に期待することなどを、それぞれの立場から、一言ずついただきたい。

委 員 置賜地域は、歴史的にも上杉の時代から深いつながりがあるので、3市5町で取り組むことについては、的を射ていると思う。一つお願いしたいのは

「共存・共栄」である。置賜は一つということで、小さい町でも埋没することなく、頑張っている町・地域のそれぞれの良さを取り入れていただきながら、共に取り組んでいきたい。また、飯豊町は米沢牛の飼養頭数が最も多いが、米沢牛については3市5町の共通の課題であるので、ブランド力の強化のため、より一層3市5町がまとまって、飼養頭数の増加や技術開発、担い手の育成などを行い、国内外に打って出るような対応ができないか、提案させていただきたい。

委員 白鷹町は、米沢市から距離が離れていることもあり、実際のところ、米沢市に行くよりは山形市に行く方が早く便利がいいという状況にあるが、置賜地域の一つである。このたび、栗子トンネルが開通し、米沢市までの交通は非常によくなっているので、そこから白鷹町までの交通を考えていただくことで、観光で町に来ていただく人が増え、移住や産業の発展につながるのではないかと考えている。

委員 小国町は、地理的な面から、人・経済の交流の面で新潟県に依存しているという部分が相当にあるが、町内には上杉に関連する神社や文化財があり、上杉の文化によって3市5町がつながっているという思いを持っている。地域として置賜にあるからというだけではなく、文化的にも置賜の一員である思いを強く持っている。これから、広域行政の結びつきを強くしていかなければならないという時期にあって、米沢市が中心となり進めていくことについては賛成である。小国町としては、町に来る際の道路が一本しかなく、迂回路がないという状況にあるので、複数のルートをとるのが悲願である。皆さんにとっても小国町だけの問題としてとらえるのではなく、一緒に活動していただきたいと思っている。そのほか、様々な分野で連携していきながら、共に発展し、全体として自立していけるよう、議論に参加させていただきたい。

委員 川西町は米沢市との交流が相当多い町だが、皆さんと共存・共栄することによって、町が発展していければと思っている。産業に携わる者としての提案として、全国的な問題ではあるが、働き手の確保ができずに困っている。都心から呼び込むのは難しいかもしれないが、この地域で生まれ育った人になるべくこの地域で就職してもらいたいという思いがあり、それが産業の振興発展につながるのではないかと考えているので、このようなことを、皆さんと一緒に考えていきたい。

委員 共生ビジョンに記載する「将来像」の中に「必要な生活機能を確保するため、自立のための経済基盤を培い…」とある。その時に大切なのは、3市5町それぞれに、共通する「地域活力基盤」（経済基盤に対して）が必要だということだと思う。ビジョンを描いていく際に、3市5町それぞれの魅力が引き出されて、それが融合していかなければならないと思うが、置賜地域の資源（自然・人的・社会的・経済的資源）を余すことなく活用するということが重要なポイントになると思う。地域活力基盤の一つには、いかに地域の

生産年齢人口を増やしていく、生産年齢を上げていく、ということも必要であり、これから人口減少時代の環境下において、地域がどう活力を持つかと言ったときには、生涯現役社会をいかにつくるか、ということに尽きると思う。その生涯現役社会をつくっていったときに、そこに地域活力基盤なるものが確立されていく。将来、教育・文化・福祉・経済など様々なところに手を打っていくときに、地域にしっかりした地域活力基盤がなければ、ビジョンで、いかに夢を語り、形の上で手を打っていこうとしても、地域の底力にはなりきれない。3市5町の地域のすべての人々が少なからず仕事をして、何らかの経済活動に関わっていく環境が若者の憧れにもつながっていく。地域がいきいきとしているということは、地域の魅力を余すことなく活かし、活用しているということだと思う。そのようなことから、ビジョンを作るときには、地域がしっかりした活力基盤をつくるにはどうしたらいいかということも、合わせ考えていってはどうかと思う。

委員 観光の分野から発言すると、観光客が山形県に来るときには、観光地を目指すので、あまり、行政の境目を気にしないで動いていると考えられる。そのようなことから、是非、置賜一円として観光資源を一体的に活用し、魅力を発信していくことが望まれる。その際にネックになるのが行政のボーダーラインであるので、この定住自立圏構想の中で、行政のボーダーラインを取り払えるような、フラットなプラットフォーム的なものを作ってはどうか。併せて、中高年齢者の雇用にスポットを当てた表題・ビジョンを検討してはどうかと思う。

委員 置賜地域を一体的にするということについて、非常に意義があると思う。実際に住んでいて、「置賜」という感覚はあまり育っていないと思うので、今回をきっかけとして「置賜」という感覚が、普通の我々の生活の中に定着していけばよいと思う。将来像に関しては、それぞれ3市5町の良さが、その市町の中だけで共有されるだけではなく、互いの良さを共有できるような雰囲気が醸成されればよい。具体的な施策としては、近隣市町をつなぐ仕組みができればよいと思う。例えば、観光の視点であれば、各市町の遺跡などを旧石器時代から古墳時代までの一つのつながりとして置賜全体で示せば、興味のある資料になると思うし、上杉、米沢藩ということで言えば、中心は米沢だが、それに合わせて、経済的な側面では、最上川の舟運の中で長井市と白鷹町との関係、あるいは長井から高畠町の日領の絡みなど、歴史的なつながりの中で示せば、置賜という全体の像が見えてきて、観光交流につながっていくのではないかと思う。そのほか、圏域での生活面ということであれば、置賜全体で、どのような子育て支援の施設があって、それぞれがどのような特徴を持っているのか、一覧として示すことができれば、そのような世代の動きも出てくるだろうし、高齢者、障がい者のための施設などについても、単独市町で不足していたとしても、置賜全体でみれば、相当な部分がカバーできる、など、住民に提示できれば生活の安定につながっていく

のではないかと感じている。あるいは、産業振興の中で、SNSを利用して、地域と若い世代とをつなぐような仕組みができるのであれば、地元から出て行ったとしても、その意識を地元につなぐことができる。このようなことを単独市町でやろうとしてもなかなか難しいと思うが、今回を契機として、その仕組みづくりができればいいと思う。全体としては、各市町をつなげるような仕組みづくりということが一つでも実現できれば、その意義は大きいと思う。

委員 消防・防災の立場で話をさせていただきたいと思う。先日、体に感じる地震があった。我が家の近くにも活断層が通っているが、米沢の今の世代は危機感がない。大きな災害が全国で起こっているが、地震や災害に関して、このような備えをしましょう、といってもなかなか理解してもらえない状況にある。しかし、実際に起こった時にどうするのか、というのが私たちの問題である。防火クラブとして各市町で活動しているが、数が少ないし、高齢化もしているので、これを今後どのようにしていくのか、また、万が一の災害の時にはどのように連携していくのか、というのが課題なので、このことについて、皆さんと考えていきたい。

委員 資料3に記載されている（人口の）現状を見ると、自身が認識していたものよりも厳しい状況だと感じている。抜本的な改革や、持続可能を求めるビジョンの提案が必要だろうと感じた。資料2-2に各機能が提案されているが、それらが中心市と近隣市町との間で十分に相互の補完が得られており、これらをつなぐ機能が強化されるような仕組みづくりが最終的なビジョンになっていけばいいと思う。これまで各委員から指摘があったことを盛り込みながら、伸ばす・強化すべきところを明確にし、次の会議で提示されたビジョンの素案に従って、議論を進めていけばいいのではないかなと思う。最終的に、この地域に暮らす人たちの持続的な発展というのがポイントとなってくると思うので、そのネットワークを機能させる、ということを意識して素案を作成してもらいたい。

委員 今から20数年前から、フルセット主義からの脱却というのが言われ続けている。つまり、各市町村単位で、公共施設などをフルセットで持つということはやめていこうではないか、同じ圏域・エリアで、役割分担・共有化をして、それをつなぐ道路整備をしていけばいいではないかということが言われ続けてきた。今回の懇談会を、置賜地域におけるフルセット主義からの脱却の契機にしてもらいたいと思っている。それが、ひいては、我々一人ひとりの社会コストの低減につながり、そこで浮いたお金を、人口減少社会において本当に必要な分野への投資に向けていかないと生き残れないと思う。そのために、行政・自治体の壁を乗り越えていかないと、せっかくの懇談会なので、そこを目指していきたい。また、産業界のみならず、地方は人手不足が深刻化しており、人手不足倒産も起きようとしているし、もう一つは事業承継、後継者不足で廃業が止まらず、事業所数が減り続けている。これを食

い止めようとしているが、例えば、首都圏の地元出身の大学生に「米沢に戻ってきてくれ」というのではなく「置賜に戻ってきてくれ」となぜ言えないのかというのを前から思っていた。置賜広域の連合体として人を確保していかないと、地域間では、ほかのエリアにとられていくということを実感している。移住・定住・Uターン・Iターン・Jターンのすべてにおいて、置賜全体のどこかに来てくれ、戻って来てくれという、連合体の働きかけを、是非、早々にやっていきたいということを経済界としては思っている。

委員 農業の関係ということになるが、まずもって、施策の中に米沢牛の取組を取り上げてもらったことについて、生産者の立場からお礼を申し上げたい。米沢牛がG I登録になった大きな理由として、厳しい定義を持って生産していることが挙げられる。それは、雌牛・未經産・32 か月以上飼育という条件をクリアし、かつ肉質としてA 3以上というもの。そのような中であらばいただいてブランドを作り上げてきた。今現在、繁殖で3300、肥育が6600、併せて約1万頭の和牛がいることになるが、まだまだ足りない状況にある。特に、繁殖牛、子牛の高騰ということもあるので、後継者対策も含めて、増頭しながらブランドの価値を高めていきたいので、御協力、御支援を賜りたい。もう1点、我々は平成6年に合併したが、全国でJ Aや産地が合併しているので、産地の一つのロット（量が）非常に大きくなっている。従来の自治体単位のロットで勝負をかけるのは、非常に不利、難しい状況になっている。農産物についても、「置賜のブランド」として、いち早く打ち出しながら、そのためには置賜全体が統一した規格・品質を保つべき、これを統一共選と言うが、これをしながら「置賜のブランド」を作っていきたいということで平成30年度からスタートしている。置賜として、各自治体の協力の下、ブランド化していかないと立ち行かないと思うので、この懇談会の中で議論していきたい。

委員 以前から、「置賜は一つ」という言葉は使われているが、これまでの意見の中でもあるように、行政の壁、自治の壁等々で、実際には、そうではなかったのではないかと感じている。学校教育については、教育事務所が長井市に移り、置賜が一つの管内として取り扱われている。ただ、子供たちの数が少なくなり、それぞれの地域で適正規模の学校検討がなされていく状況の中で、置賜地区の学校教育のあり方も難しい状況にある。また、先ほど話があったように、子育て支援や生涯学習の施設等々で大きな交流があればいいのではないと思う。しかし、高齢の方の場合、足がないという状況にもなるので、置賜地区で交流をする上では、交通も大きな要素である。また、置賜の人たちに「置賜は一つ」ということが浸透するようなビジョンができればよいと思う。

委員 福祉の分野で話をすると、人口減少、高齢化対策という中で、厚生労働省の生活支援体制整備事業が全国的に行われている。これは、高齢化が高まっていく中で、元気な高齢者を、どんどん社会参加させていこう、という動き

で、地域や、それぞれの市町村の行事の担い手役になってもらおうという取組を進めているので、何らかの形で取り込んでいければと考えている。また、置賜3市5町の社会福祉協議会の担当間で話をすると、置賜は「雪」の問題が、最も頭を悩ませているということで、これから生産年齢人口が減り、高齢者が増加する中で、雪対策をどうしていくかというのが各社協としての課題である。子供の部分では、子育て中の母親と話をする機会があるが、冬場、雪が降った時に置賜地域で遊べる場所があれば、ということ聞かれる。夏場には遊ぶ場所があるが、雪が降るとないということが、住みにくいということにもつながるので、子育て支援の一環として、ビジョンの中の視点として取り入れていただくとありがたい。

委員 新聞に掲載されていた「住みよさランキング」の結果を見たときに、米沢のランキングが低かった。住んでいると、それほど不便だという実感がなかったため、非常にショックを受けたが、改めて見てみると、活気や利便性、安心度という点で、まだまだ考えていかなければならない余地があると感じている。「安心して子どもを産める」というのが、大事なことだと思うが、この点をもう少し広げ、大きくなった子供たちが生き生きと生活できるようにするにはどうすればよいか、家庭や、学校の在り方などを含め、掘り下げて検討できればと思う。

委員 今、観光は非常に多様化している。昔は観光客という一つのくくりであったが、今は食・農・産業やコンベンションなど、すべてにおいて観光がある。広域観光という言葉は4～50年前から言われ続けているので、3市5町がまとまって取り組んできたのが観光だと思う。ただし、昔は、3市5町がまとまってはいたが、まとまっていながら、自分の市や町を売り込むというように、小さいエリアの中での競争だった。それが今は広域化しないとなくなり、道の駅の総合観光案内所におけるほとんどの案内が、一つのまちにとどまらない。花や山など、観光客が非常に広域的に活動しているので、一つの市や町で争うのではなく、力を結集して、置賜一つで取り組んでいかなければならないと思っている。道の駅に3名のコンシェルジュ、いわゆる案内ガイドがいるが、募集した時に、若い人がほとんど来なかった。かえってよかったと思うのが、非常に知識が豊かで勉強熱心なところ。いわゆる第2、第3の人生をもう一回、ここで皆さんにお返ししていこうという意気込みが非常にあり、これからの雇用形態の参考になったと考えている。若い人は育てていかなければならないが、これからは様々な産業でこのような（年配者の）活用も考えられるのではないかなと思う。また、これからの将来人口の推移をみると、人口減少とはいうものの、人口を増やしていくという視点が欠けていると思うので、増やす努力というものを盛り込んでもよいのではないかなと思う。子供を産み育て、就業人口を増やしていくという点においても、そのような視点を強く打ち出してはどうか。また、様々な御意見をいただいて、各市町の素材を磨き上げ、オリジナル性を大事にしながら、こ

れから道の駅でも周遊するような旅行商品を企画していきたいと考えている。

会 長 委員の皆様の意見を聴くと、共存・共栄など、皆様の想いはだいたい共通しているのではないかと思います。最初の挨拶でも述べたとおり、特殊解というものを意識していただき、置賜らしさというものを作っていければと思う。課題についても共有が図れたのではないかと思いますので、これからの展開が楽しみである。なお、まだ意見や質問などがあると思う。集まる機会も限られるので、事務局のメールアドレスをお知らせするので、直接事務局あてに送っていただきたい。

8 その他

事務局 先ほどスケジュールで説明したが、少し補足をさせていただきたい。今回のビジョンについては、将来像と具体的な取組・事業を掲げさせていただく。非常にタイトなスケジュールで検討をお願いしているところだが、一番は来年度の予算に組み込んで、国からの交付税をいただき、できるものから事業をスタートさせていきたいと考えている。様々な御意見がある中で、すべての意見を反映させるとなると非常に時間がかかると思われるが、米沢牛や広域観光など、既に各市町の職員でワーキンググループを開催し、検討をしているので、その中で方向性が出たものについては、次回から素案を出させていただいて御意見をいただきたい。一方で、ビジョンについては毎年見直しが可能である。皆様には2年間の任期で委嘱させていただいているので、次回以降、様々な課題をだしていただきたい。それを事務局の方で検討させていただき、実際にどのような事業を組み込むかというところまで持っていく、ビジョンに載せることになる。課題のうち、ビジョンに盛り込めなかった御意見等については、宿題として次回のビジョンに向けての検討とさせていただきたいので、その点を御理解いただければと思う。

次回の日程については、10月3日の午後、この伝国の杜で開催したい。正式な案内は別途差し上げる。